

GakuNin RDMの利用促進に向けて ～広島大学での取組み～

西村 浩二
情報メディア教育研究センター
財務・総務室情報部
kouji@hiroshima-u.ac.jp

NIIオープンフォーラム2022 (NII RDCトラック4)



広島大学の概要



- キャンパス, 遠隔地区・施設, 県外・海外拠点施設等
 - ①東広島キャンパス, ②霞キャンパス, ③東千田キャンパス, ④～⑱遠隔地区・施設
 - 県外センター・オフィス(東京, 大阪, 福岡)
 - 海外センター・オフィス(中国:5, インドネシア:2, ベトナム:1, ブラジル:1, 韓国:1, 台湾:1, ロシア:1, ケニア:1, エジプト:1, ミャンマー:1, メキシコ:2, カンボジア:1, リトアニア:1, ドイツ:2, モンゴル:1)
- 部局等
 - 学部:12, 専攻科:1, 研究科:15(うち11研究科は在学生向け・学生募集停止), 研究科横断的な学位プログラム:1
 - 附置研究所:1, 学部等附属の教育研究施設:17, 全国共同利用施設:1, 共同利用・共同研究拠点:2, 中国・四国地区国立大学共同利用施設:1, 学内共同教育研究施設等:27, 各理事室所属のセンター等:11, 図書館・博物館等:5
 - 大学病院(診療科 医科:34、歯科:13)
- 構成員数 19,076名(令和3年5月1日現在)
 - 学部学生 10,605名, 大学院生 4,435名, 専攻科学生 16名, 研究生・科目等履修生等 533名
 - 役員 11名, 教員 1,872名, 職員 1,779名

今日のお話

- GakuNin RDM利用促進の取組み
 - 人材育成の観点
 - 研究データ管理の必要性や研究推進手順の理解促進
 - ↑のための枠組み作り
 - 制度・規則設計の観点
 - 研究データ管理の組織としての枠組み
 - “ ” 組織への浸透手順
 - 機能・環境整備の観点
 - ストレージの選定どうする？
 - 対象者の選定どうする？
- 機関ストレージの試行について
 - 教えて！込山先生、下山先生
- 前回報告からのアップデートと変更点

GakuNin RDM利用促進の取組み1

- 人材育成の観点

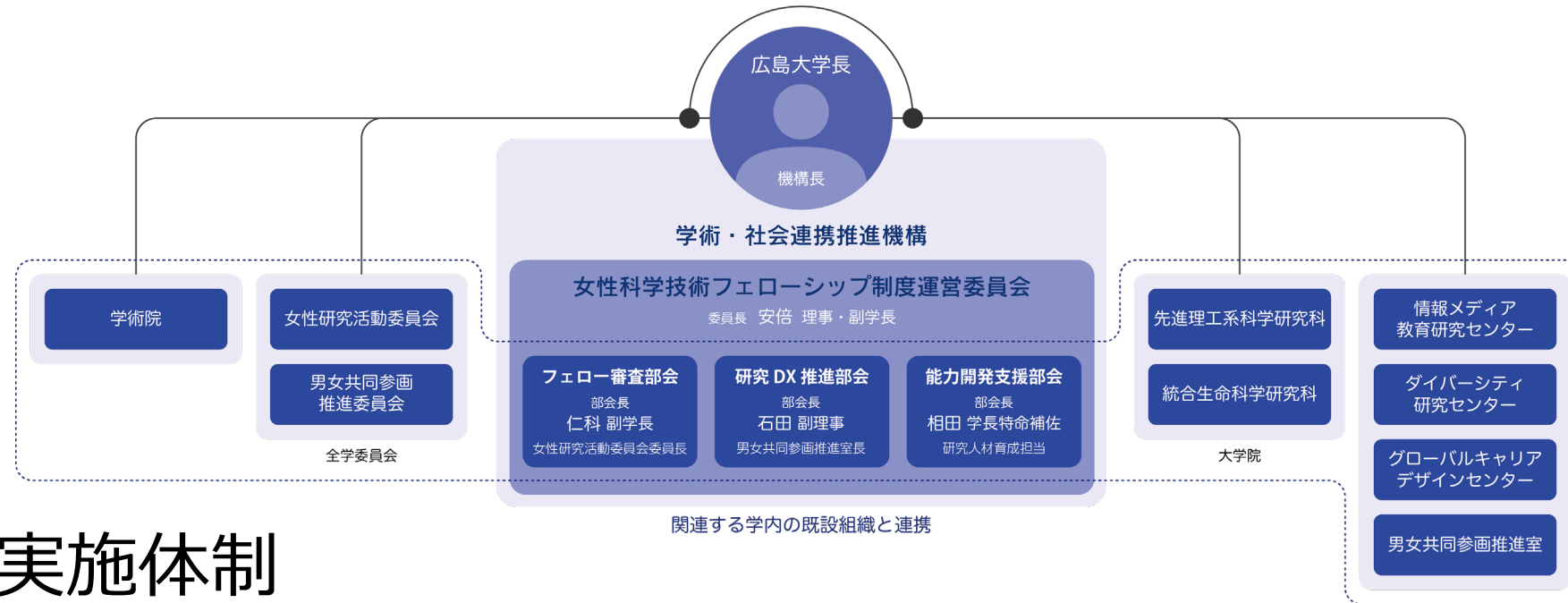
- ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ

- 研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、女性研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や女性研究者の研究力向上のための取組、女性研究者の積極採用や研究中断、あるいは離職した女性研究者の復帰・復職支援及び女性研究者の上位職への積極登用に向けた取組等を支援する（「事業概要」より）

- 令和3年度の特徴対応型に応募

- 「女性科学技術フェローシップ制度の創設による次世代の積極的育成」
 - 平成29年度より「国際型ダイバーシティ研究環境実現プログラム（牽引型）」を実施中
 - 博士後期課程の女子学生を対象とした学内フェローシップ制度の構築
 - 「研究効率の向上」「女性研究者の活躍促進」「女性研究者を含む若手研究者の育成・確保」
 - 研究者としての活動の基盤を形成する機会と捉え、研究遂行に必要な環境整備（実験ノートの電子化等）および手順（研究データ管理等）の教育を行う

女性科学技術フェローシップ制度の創設による次世代の積極的育成



● 事業実施体制

－ 女性科学技術フェローシップ制度運営委員会

- 委員長は理事・副学長 (学術・社会連携担当)
 - － 「研究データ管理方法等検討WG」の座長 (後述)
- 「フェロー審査部会」「研究DX推進部会」「能力開発支援部会」
 - － 情報メディア教育研究センターは主として「研究DX推進部会」と連携し、研究データ管理基盤の検討・構築・運用を支援

(GakuNin RDMから見た) 取組みの概要

- Dropbox Enterpriseの利用
 - ダイバーシティプログラム対象者にライセンス付与
 - GakuNin RDMの拡張ストレージとして活用
 - 明らかになった課題
 - 既に本学のメールアドレスで利用中のDropboxユーザに対するライセンスの割り当て (チームへの招待)
 - Dropbox自身を持つ共有機能との違いの説明
- GakuNin RDM利用にかかる説明会等の開催
 - 研究データ管理セミナー (2022/2/10)
 - 研究データ管理入門、GakuNin RDM概要、拡張ストレージの設定手順
 - Dropbox利用説明会 (2022/3/10)
 - チームへの招待 (参加) と退会、SSOでのログイン

GakuNin RDM利用促進の取組み2

- 制度・規則設計の観点

- 研究データの管理方法等検討WG

- 広島大学の研究データの管理・利活用に係るデータポリシーの策定、組織的な研究データ管理のための環境整備の検討及び「広島大学における研究資料等の保存に関するガイドライン」の見直しを検討し、実施案を策定する

- WGメンバー

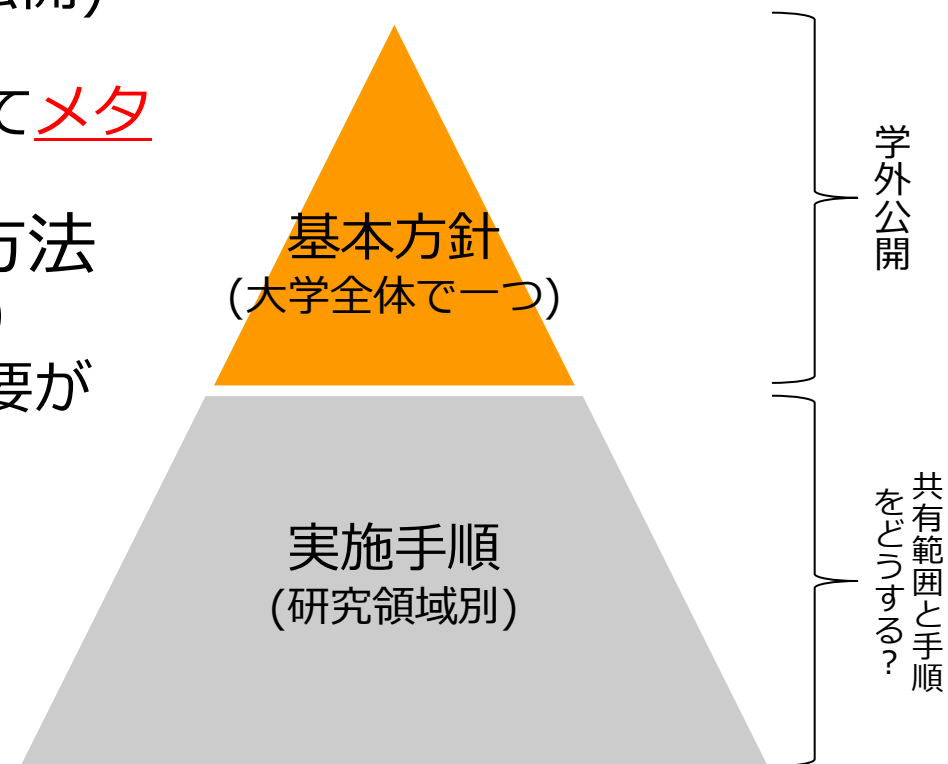
- 座長：理事・副学長 (学術・社会連携担当)
- 副座長：情報メディア教育研究センター長/財務・総務室情報部長
- 4研究科の代表者→11研究領域の代表者 (リエゾン役)

- 検討状況

- 第1回：他組織におけるポリシー策定状況、本学における方向性
- 第2回：研究DX推進セミナー、実験ノートの電子化デモ
- 第3回：研究データの管理方法とスケジュール、ポリシー策定の基本方針
- 第4回：WG再構成、実施手順作成のためのチームビルディング、ポリシーの表記に対する解説

ポリシー策定の方向性（検討中）

- 文部科学省通知（令和3年6月2日）への対応
 - 研究領域において管理対象データを定めるとともに、メタデータを検討（～2023年度）
 - 管理対象データ（公開、共有、非共有・非公開）を定め、NII RDCでデータ検索可能
 - 公募型の研究資金の全ての新規公募についてメタデータを付与
 - 研究領域において、研究データの保存方法を定め、実施手順を作成（～2025年度）
 - 管理対象データの扱いについて記載する必要があるため、実質的には2023年度に要対応
- ポリシーの体系
 - 基本方針と実施手順
 - 他機関の策定状況を参考に、管理・公開・利活用の方針、責務、手順を定める



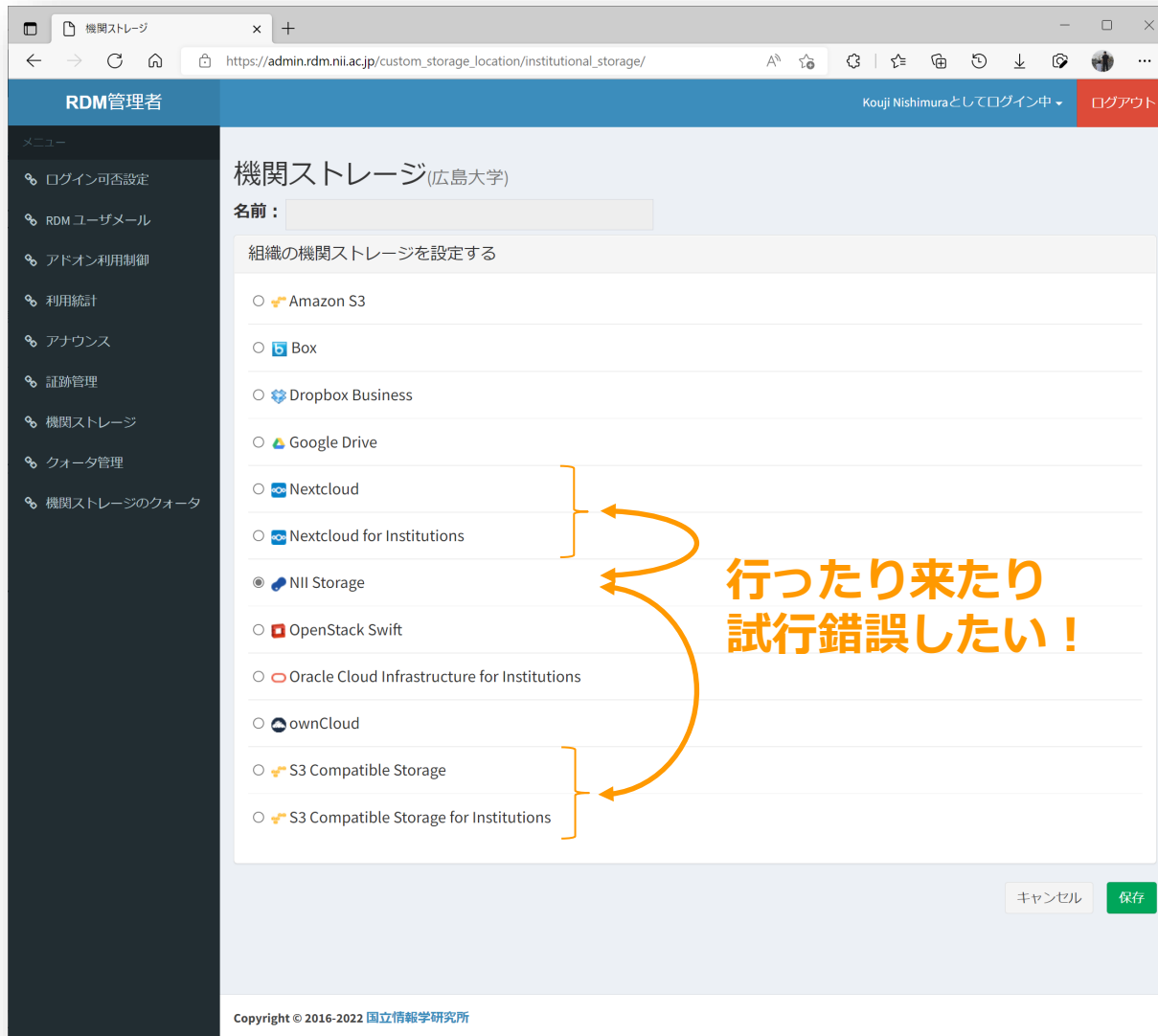
GakuNin RDM利用促進の取組み3

- 機能・環境整備の観点
 - ストレージの選定に向けた試行
 - クラウド：Dropbox Enterprise
 - 拡張ストレージとして
 - オンプレ：Cloudian HyperStore (S3互換ストレージ) + Nextcloud
 - 拡張ストレージ or “第2”(?!) 機関ストレージとして
 - 対象者の選定
 - 学認参加IdPによる認証
 - 「研究者」だけでなく支援職員も対象とする必要あり
 - 教員 (faculty) または職員 (staff) の属性 (eduPersonAffiliation) を持つ者
 - ストレージの選定に影響
 - 機関ストレージ (全対象者) と拡張ストレージ (研究者の一部) で使い分け？
 - » クラウドとオンプレの複数機関ストレージが利用できないか？
(例えば「NII Storage」に組織が整備する機関ストレージをアドオンとか)

GakuNin RDMの利用に関わる者 再考

- 広島大学における「研究者」の定義
 - 教育研究情報収集システムに登録されている者 (2019年アンケート実施時：1,982名)
 - [広島大学職員任免規則](#)
 - 別表 (第4条関係) 職種, 職名及び職階のうち、以下の職種
大学教員
 - [広島大学教育研究系契約職員の任免・給与及び労働時間・休日・休暇に関する規則](#)
 - 第3条「教育研究系契約職員」のうち、次の者
 - (1) 特任教員
 - (2) 寄附講座等教員
 - (3) 病院助教
 - (4) 大学院法務研究科みなし専任教員
 - (6) 研究員
 - (8) 特別研究員
 - GakuNin RDMの利用に関わる (必要のある) 者はもっと多い (2022年5月26日現在)
 - 2,080名 (教育研究情報収集システムに登録されている者 update)
 - 3,234名 (支援を含めて研究活動に関わると考えられる者)

機関ストレージの切り替え・切り戻し



- 機関ストレージ
 - 標準は「NII Storage」
 - 組織整備のS3互換ストレージに切り替えてみたい!
- 教えて！込山先生、下山先生
 - 機関ストレージを切り替えると「NII Storage」で作成したプロジェクトはどう (見えなく) なりますか？
 - 見えなくなるとすると移行はどうすれば良いですか？推奨の移行方法は？
 - 切り替えを取り消せますか？ (「NII Storage」に戻すことはできますか？)
 - 「xxx for Institutions」って？

オープンフォーラム2021でのお話 (進捗)

(広島大学の)一担当者の方針(私案)

Primary→クラウド
Secondary→オンプレ?

- ストレージの選定
 - 「クラウドサービスのストレージ」ではなく、「クラウドストレージサービス」を (Primary機関ストレージとして)利用
 - OneDrive for Businessを機微情報(研究データを含む)の保存場所 (Secondary機関ストレージ)として利用
- 対象者の選定
 - ✓ - 研究者：研究データ管理→容量無制限(一部自己負担、GakuNin RDM以外も利用可)
 - 職員：業務データ管理
 - 学生：教育・学習データ管理 **教育・学習支援システムで実現の方向**
- 進め方
 - ✓ ① 若手研究者向けに小規模(100程度)の研究用ストレージを導入・提供し、研究データ管理の“いろは”を教育(※必要性和事例を示す)
 - ② 希望する研究者(職員や学生も?)に一部自己負担で(※仲間を増やして単価を下げる)
 - ③ ↑+全構成員に最小限のストレージ(※機関ストレージ化が完了)
 - ④ 離籍者のデータは大学が管理を引き取る
 - 異動先などから自身のデータへの(read-only)アクセスを許可する仕組み(開発)

オンプレ+クラウド
の構成ならば可能
※ID管理の対応要

2021/7/7

NII OPEN FORUM 2021 - AXIES-RDMとの合同セッション

13